

# 日本医療マネジメント学会第20回島根県支部学術集会開催報告

西 英明

**要 旨**：日本医療マネジメント学会第20回島根県支部学術集会を、2022年10月1日に三刀屋文化体育館アスパルで開催した。テーマを“ウイズ・コロナ～検証から未来へ～”とし、これまでの各病院、施設の新型コロナウイルス感染症に対する独自の対策、知見を共有する機会を設け、これまでの対策・対応を検証し、今後の感染対策を考え、さらにはこのコロナ禍の克服を目的とした。参加施設20施設、参加人数156名、演題数は特別講演1題、シンポジウム4題、一般演題22題であった。特別講演は谷口栄作島根県健康福祉部医療統括監の“島根県における新型コロナウイルス対策の現状と今後の対応”、シンポジウムのテーマは“新型コロナウイルス感染症対策の取り組みと今後に向けて”とした。本学会で議論された内容が、今後の新型コロナウイルス感染症対策に生かされ、一刻も早くこの感染症が収束することを切に願う次第である。

**キーワード**：新型コロナウイルス感染症、ウイズ・コロナ、感染症対策

(雲南市立病院医学雑誌 2023 ; 19(1) : 印刷中)

日本医療マネジメント学会第20回島根県支部学術集会を、令和4年10月1日に雲南市の三刀屋文化体育館アスパルにおいて開催した。

今回はコロナ禍での開催となったが、十分な感染対策を前提に、現地開催とした。

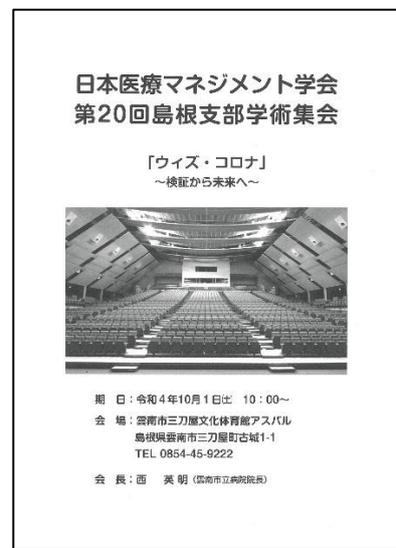
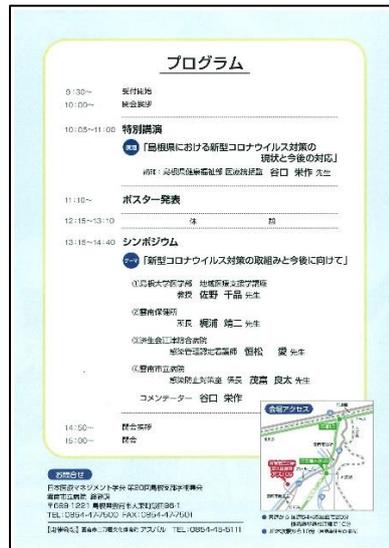
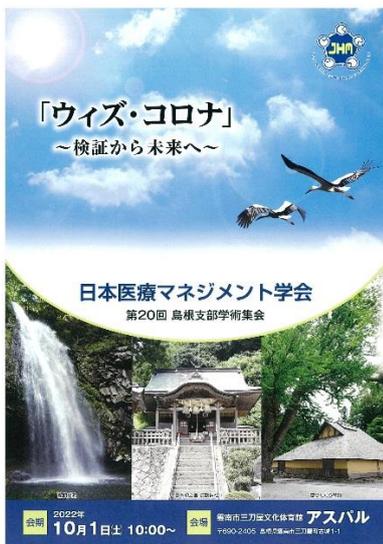


図1：学会ポスター(オモテ、ウラ)と抄録集表紙

雲南市立病院整形外科、日本医療マネジメント学会 第20回島根県支部学術集会会長  
連絡先：西 英明 雲南市立病院地域外科 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-mail : hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

(受付日：2023年2月28日、受理日：2023年3月1日、印刷日：2023年●月●日)

## シンポジウム

テーマ：「新型コロナウイルス感染症対策の取り組みと今後に向けて」

座長：雲南市立病院 院長 西 英明、雲南市立病院 看護部長 前島里子

コメンテーター：島根県健康福祉部 医療統括監 谷口栄作

シンポジスト：

病院でのコロナ感染制御対応に苦慮している点……………島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

新型コロナウイルス感染症が教えてくれたこと……………島根県雲南保健所 所長 梶浦靖二

早期に終息した高齢者福祉施設クラスターの1事例……………済生会江津総合病院 感染管理認定看護師 恒松 愛

新型コロナウイルス感染症対策における地域中核病院としての取り組み

～地域包括ケア病棟をコロナ病棟に転換して対応した当院の事例～

……………雲南市立病院 感染管理認定看護師 茂富良

## ポスター発表

### I. 医療安全 座長：森山博之

A-1 当院における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する検査体制について

……………大田市立病院 野津礼子

A-2 DR 撮影装置変更後の人工股関節置換手術前の撮影の検討……………松江市立病院 大塚悠貴

A-3 COVID-19 入院病棟における患者状況と看護の必要量の可視化

～看護師の適正な人員配置と応援体制の指標として活用するために～……………浜田医療センター 小野妙子

A-4 看護師業務の負担軽減ができた『経費ゼロ』の薬剤検索システム……………雲南市立病院 曾田勇介

A-5 当院における COVID-19 検査の動向～ウィズコロナに向けて検査業務の対応～……………雲南市立病院 落合陽美

### II. 看護 I ① 座長：小川享子

B-1 看護の質の向上に向けた療養環境改善への取り組み……………松江市立病院 殿岡真夕子

B-2 業務改善から学んだこと……………松江市立病院 松尾妙子

B-3 質の高いケアを統一した方法で提供するための看護計画の見直しについて……………松江市立病院 吉岡麻衣子

B-4 特定行為研修修了看護師が関わる外科周術期管理について

～手術前の看護実践の現状と周術期外来の検討～……………雲南市立病院 石原鮎子

### III. 看護 I ② 座長：松浦陽子

C-1 精神科病棟での行動制限最小化に向けての取り組み……………松江市立病院 小西由紀恵

C-2 褥瘡ハイリスク患者ケア加算導入後の変化と今後の課題……………雲南市立病院 濱村優子

C-3 当院での誤嚥・窒息予防の取り組み……………雲南市立病院 清水晃子

C-4 一般病棟での院内デイケア導入を試みての効果と課題……………雲南市立病院 山田美保

### IV. チーム医療・医療情報・その他 座長：吉岡健太郎

D-1 薬剤を含む指示簿における現在の課題－消化器内科クリニカルパスについて－

……………松江市立病院 宇野慶子

D-2 へき地診療所における当院診療看護師がおこなった業務改善の取り組み

～患者有益性と安全・看護師の働きやすさを追求して～……………雲南市立病院 本田 香

D-3 自動車運転再開支援を行った壮年期脳卒中後の男性について……………雲南市立病院 角 紀子

D-4 総合診療科医師と療法士によるリハビリカンファレンスに関する活動報告……………雲南市立病院 嘉本侑馬

### V. 入退院支援の体制 座長：林 和美

E-1 退院支援時の違和感、不全感に着目した事例の一考察……………JCHO 玉造病院 高木陽子

E-2 特定妊婦とその子育てを支える医療機関の役割……………益田赤十字病院 寺井美佐枝

E-3 当院診療看護師による退院後訪問の現状と課題……………雲南市立病院 本田 香

E-4 移行期ケアにおける診療看護師の役割開発:PEPPA フレームワークを用いて……………雲南市立病院 木村千尋

E-5 退院後訪問指導の活動内容とアウトカムに関する文献検討……………雲南市立病院 木村千尋

図 1：学術集会プログラム

学術集会のテーマを“ウィズ・コロナ～検証から未来へ～”とした。これまでの各病院、施設の新型コロ

ナウイルス感染症に対する独自の対策、知見を共有する機会を設け、これまでの対策・対応を検証し、今後

の感染対策を考え、さらにはこのコロナ禍の克服を目的とした(図 1)。

参加施設 20 施設 (会員病院 15 施設、非会員施設 4 施設、包括支援センター1 施設)、参加人数 156 名であった。演題数は特別講演 1 題、シンポジウム 4 題、一般演題 22 題 (ポスター形式) であった。

特別講演では、谷口栄作島根県健康福祉部医療統括監が、“島根県における新型コロナウイルス対策の現状と今後の対応”について講演され、新型コロナウイルス感染症の経過、特性、これまでの対策、今後の対策について講演された。島根県で感染対策の陣頭指揮を執ってこられた、谷口先生ならではの講演であり、講演後は会場から多数の質問があり、参加者の関心の高さが窺われた。

シンポジウムでは、“新型コロナウイルス感染症対策の取り組みと今後に向けて”をテーマに、4 名のシンポジストにそれぞれの立場から発表頂いた。島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野千晶先生には、島根大学附属病院の感染対策についての発表があり、大規模病院故の感染対策の難しさについてお話しされ、ご苦労が窺われた。雲南保健所 所長 梶浦靖二先生には、今回の感染症の初期で最も仕事量が多かった、地域保健所の仕事、対応についてのお話があり、法律上の問題点等の指摘があった。済生会江津総合病院 感染管理認定看護師 恒松 愛先生、雲南市

立病院 感染管理認定看護師 重富 良太先生のお二人には、それぞれの病院での対策、対応の紹介があり、今後の対策に向けての取り組みの紹介があった。発表後のディスカッションでは、コメンテーターとして、谷口栄作先生も参加され、会場からも多くの質問があり、活発な議論となり、予定時間を 30 分以上超過する過熱ぶりであった。

一般演題会場でも、各セッションで、活発な質疑応答、議論が展開された。各演題が興味深い内容であり、発表者の熱意が感じられる内容であった。

本学会を終えて、本学会で議論された内容が、今後の新型コロナウイルス感染症対策に生かされ、一刻も早くこの感染症が収束することを切に願う次第である。

最後にご講演、ご発表頂いた先生方、ご参加頂いた皆様、また本学会を主催するに当たりご協力頂いた皆様、雲南市立病院職員一同に感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 雲南市立病院編. 日本医療マネジメント学会 第 20 回島根県支部学術集会プログラム・抄録集. 初版. 雲南、第一印刷. 2022

A host report of the 20<sup>th</sup> Annual Congress of the Shimane branch of  
Japan Society for Health Care Management (JHM),  
on Oct. 1, 2022, in Mitoya, Unnan

Hideaki Nishi

**Abstract:** The 20<sup>th</sup> Annual Congress of the Shimane branch of Japan Society for Health Care Management (JHM) was held on Oct. 1, 2022, in Mitoya, Unnan. The theme was ‘with corona, from verification to future’ and the objective was to share and verify the knowledge and past action of each hospital, to overcome the COVID-19 pandemic, and to design the future management of this infection. The congress included 156 participants from 20 institutes. One special lecture, four speeches in symposium, and 22 posters were presented. Dr. Taniguchi gave a special lecture titled ‘The present status and future infection control for COVID-19’, followed by a symposium titled ‘Present and future infection control for COVID-19’ We hope the discussion in the congress will be helpful for infection control for COVID-19, resulting in the termination of the pandemic.

**Key words:** SARS-Cov2 infection, with corona, infection control

---

Department of orthopedic surgery, Unnan City Hospital, Congress president of the 20th Annual Congress of the Shimane branch of Japan Society for Health Care Management (JHM)

Hideaki Nishi, Department of orthopedic surgery, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

Telephone: 0854-47-75000 / Fax: 0854-47-7501